

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 1 年 1 1 月調査結果 —

(平成 1 1 年 1 2 月 1 日)

○調査期間：平成 1 1 年 1 1 月 1 8 日～2 4 日

○調査対象：全国の 3 9 0 商工会議所が 2 6 3 3 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 6 製造業 6 4 4 卸売業 2 4 0
小売業 7 5 9 サービス業 6 0 4

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業部 調査課 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6、7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成11年11月調査結果のポイント】

中小企業の景況は横這いで推移

- 11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース。以下同じ）は卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、建設業、製造業、小売業でマイナス幅が縮小したことから、DI値は前月と同水準の▲42.7となった。昨年8月に調査開始以来の最低値（▲66.9）を記録した後、本年4月までマイナス幅の縮小が続いたが、その後、マイナス幅の縮小傾向は一進一退の状況が続いている。中小企業の景況は下げ止まり、一部に改善の傾向も窺われるものの、依然としてはっきりとした回復への足取りが見えない状況となっている。マイナス水準での推移は平成3年4月以来104ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来99ヶ月連続となっている。

建設業では、「工事量は多少増加しているが、絶対量が足りないため業者間の競争が激しく採算面は厳しい状況」をはじめ仕事の絶対量不足と採算面での厳しさを指摘する声が続く。先行きの受注についても「年内の仕事はなんとかなるが、年を越してから年度末までの見通しがつかない」との声も寄せられている。そうした状況から「2次補正予算における公共工事の取り扱いと地方公共団体での取り組みに関心を寄せている」との声も多く寄せられている。製造業では、電子部品製造より受注増との声や、機械の一部より海外向け機械が動き出したとの声も寄せられているが、受注の減少や「仕事があっても値引要求が強く採算割れ」（金属加工機械）や「仕入れ単価上昇分を価格に転嫁できない」（食品）など採算悪化の指摘も引き続き多く寄せられている。先行きについても「一部活況も見えつつあるが本格的に安定してくるか不安」をはじめ先行き不透明との声が多い。卸売業では、「公共工事関連の資材関係は良いが他の卸は苦戦」（総合卸）や「一般の消費需要の回復が見られず、小売筋では在庫の圧縮から仕入れも小口傾向が強まり売上に結びつかない」（繊維卸）など消費不振による業況低迷の指摘が多い。小売業では、「11月中旬までは天候が温暖であったことから冬物衣料がまったくの不振」など天候不順の影響の指摘が多く寄せられた。また、「景気の下げ止まり感はあるが、消費の上向き感を感じられず売上は低迷気味」「マイナス幅の縮小も一進一退を繰り返し景気回復にはまだ向かっていない」など消費の低迷を指摘する声は引き続き多く寄せられており、先行きについても「本格的歳末商戦を迎えるに当り気の抜けない状況」との見方も寄せられている。サービス業では、飲食を中心に忘年会シーズンの売上増に期待する声が多く寄せられているが、一方で忘年会予約の減少も指摘されている。また、輸送関連からは、原油の値上がりに伴うガソリン、軽油の値上がりの採算面への影響が指摘されている。

売上面では、建設業、製造業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が3ポイント拡大して▲39.8となった。採算面では、建設業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの製造業、卸売業、小売業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の採算DIは前月水準よりマイナス幅が0.7ポイント拡大して▲41.1となった。

- 向こう3ヶ月（12月～平成12年2月）の先行き見通しは全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲30.0と現状（▲42.7）より好転するとの見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、第2次補正予算における公共工事の取扱いや年末年始に向けての個人消費の動向に対する関心が多く寄せられた。

【業況についての判断】

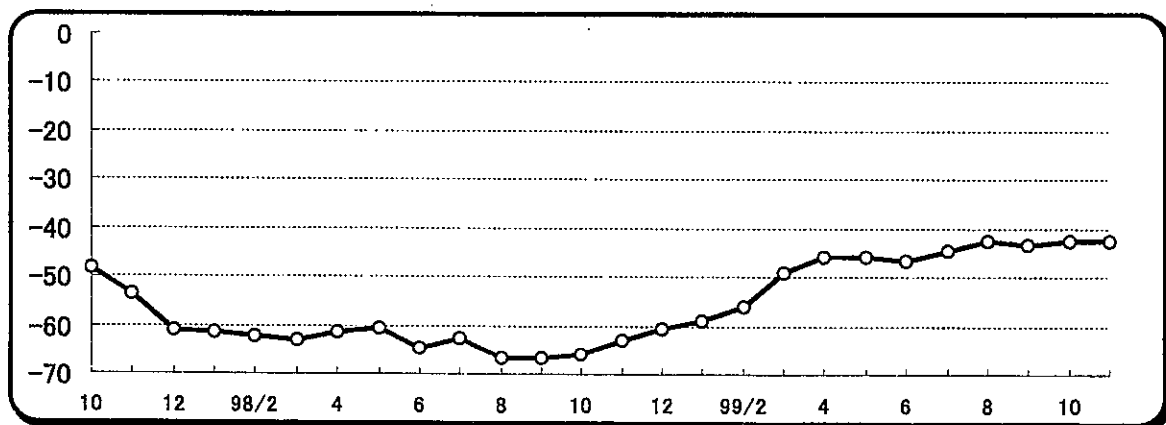
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース。以下同じ）は卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、建設業、製造業、小売業でマイナス幅が縮小したことから、DI値は前月と同水準の▲42.7となった。昨年8月に調査開始以来の最低値（▲66.9）を記録した後、本年4月までマイナス幅の縮小が続いたが、その後、マイナス幅の縮小傾向は一進一退の状況が続いている。中小企業の景況は下げ止まり、一部に改善の傾向も窺われるものの、依然としてはっきりとした回復への足取りが見えない状況となっている。マイナス水準での推移は平成3年4月以来104ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来99ヶ月連続となっている。
- 向こう3ヶ月（12月～平成12年2月）の先行き見通しは全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲30.0と現状（▲42.7）より好転するとの見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	11年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	▲46.7	▲44.6	▲42.5	▲43.4	▲42.7	▲42.7	▲30.0 (▲49.1)
建設	▲45.1	▲41.2	▲46.7	▲40.1	▲43.6	▲43.5	▲38.7 (▲50.4)
製造	▲48.6	▲43.1	▲40.5	▲40.0	▲38.2	▲37.3	▲27.3 (▲53.6)
卸売	▲46.2	▲42.0	▲32.8	▲40.2	▲39.3	▲42.8	▲27.9 (▲39.4)
小売	▲47.3	▲50.2	▲48.6	▲51.1	▲50.7	▲50.0	▲33.9 (▲51.4)
サービス	▲45.1	▲42.6	▲38.5	▲41.4	▲38.7	▲38.7	▲22.9 (▲44.4)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヶ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年11月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



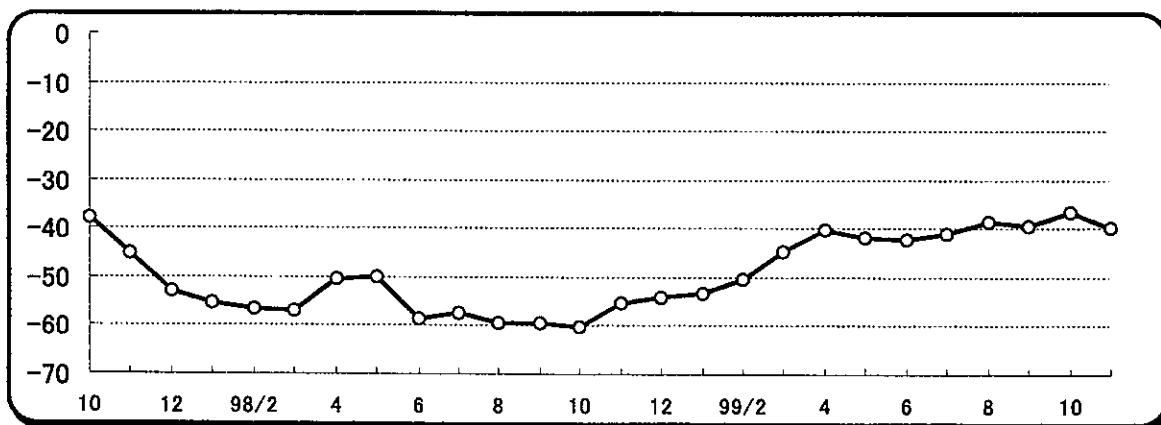
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、建設業、製造業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が3ポイント拡大して▲39.8となった。
- 向こう3ヶ月（12月～平成12年2月）の先行き見通しは全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲25.3と現状（▲39.8）より好転するとの見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	11年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	▲42.4	▲41.2	▲38.8	▲39.3	▲36.8	▲39.8	▲25.3 (▲40.4)
建設	▲39.2	▲35.3	▲43.2	▲37.0	▲36.6	▲36.2	▲37.6 (▲42.4)
製造	▲47.4	▲39.6	▲38.5	▲33.3	▲32.2	▲31.9	▲22.5 (▲45.2)
卸売	▲42.0	▲33.1	▲25.3	▲35.1	▲34.9	▲41.6	▲16.9 (▲27.4)
小売	▲43.6	▲49.3	▲47.4	▲50.9	▲42.9	▲51.1	▲28.3 (▲44.0)
サービス	▲37.8	▲40.1	▲31.0	▲35.2	▲35.2	▲35.8	▲19.8 (▲34.5)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



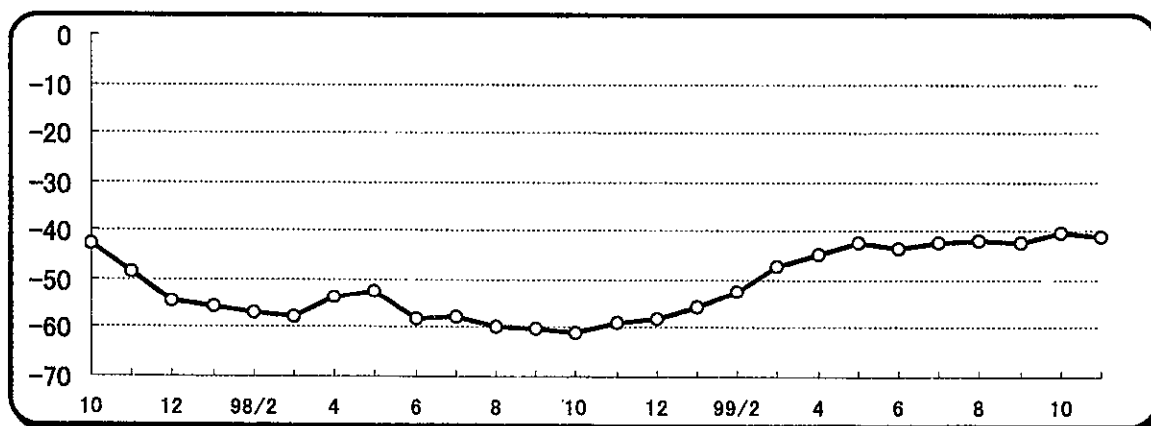
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、建設業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの製造業、卸売業、小売業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の採算DIは前月水準よりマイナス幅が0.7ポイント拡大して▲41.1となった。
- 向こう3ヶ月（12月～平成12年2月）の先行き見通しは全産業合計の採算DI（今月比ベース）が▲30.0と現状（▲41.1）より好転するとの見方となっている。

採算DI（前年同月比）の推移

	11年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	▲43.4	▲42.5	▲41.9	▲42.5	▲40.4	▲41.1	▲30.0 (▲45.6)
建設	▲44.9	▲41.5	▲48.8	▲45.7	▲44.7	▲42.6	▲38.5 (▲51.3)
製造	▲49.3	▲46.2	▲44.4	▲40.7	▲40.2	▲41.0	▲30.3 (▲51.2)
卸売	▲42.8	▲38.1	▲35.6	▲40.8	▲38.1	▲40.0	▲27.3 (▲34.3)
小売	▲41.0	▲44.3	▲45.3	▲45.6	▲42.0	▲44.5	▲32.3 (▲45.5)
サービス	▲39.2	▲38.6	▲32.4	▲39.1	▲36.6	▲36.6	▲22.2 (▲40.4)

《採算DI（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	11年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 2.8	▲ 2.0	▲ 1.3	▲ 1.4	▲ 3.7 (▲ 5.1)
建設	0.7	1.8	1.4	1.4	4.7	1.9	▲ 2.6 (▲ 2.5)
製造	▲ 0.6	▲ 4.7	▲ 4.2	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 7.6	▲ 8.4 (▲ 5.1)
卸売	9.2	9.5	▲ 2.9	1.8	1.2	10.8	1.2 (▲ 4.0)
小売	0.4	1.9	1.1	0.8	0.0	1.7	1.0 (▲ 3.0)
サービス	▲ 5.5	▲ 4.9	▲ 9.4	▲ 6.3	▲ 4.7	▲ 5.9	▲ 7.2 (▲ 10.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業で下落超感強まる。

【先行き見通しD I】全業種で上昇超感強まる見通し。

従業員D I (前年同月比) の推移

	11年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	▲ 15.9	▲ 15.9	▲ 15.2	▲ 14.7	▲ 14.8	▲ 13.9	▲ 11.3 (▲ 16.8)
建設	▲ 24.1	▲ 21.6	▲ 25.4	▲ 25.3	▲ 22.5	▲ 19.2	▲ 20.3 (▲ 26.7)
製造	▲ 25.5	▲ 24.4	▲ 19.7	▲ 18.4	▲ 18.1	▲ 21.2	▲ 15.8 (▲ 25.6)
卸売	▲ 10.3	▲ 15.4	▲ 17.8	▲ 15.9	▲ 12.4	▲ 11.4	▲ 6.6 (▲ 14.2)
小売	▲ 9.8	▲ 9.9	▲ 9.7	▲ 9.2	▲ 9.2	▲ 9.9	▲ 9.2 (▲ 12.6)
サービス	▲ 9.9	▲ 10.4	▲ 8.8	▲ 9.8	▲ 13.3	▲ 8.4	▲ 5.7 (▲ 8.8)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】建設業、卸売業、サービス業で過剰超感弱まる。

【先行き見通しD I】建設業以外の全業種で過剰超感弱まる見通し。

【平成11年11月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

「景気の下げ止まり感を感じているものの、回復基調への動きは見られない」(恵庭・建設)や「状況は少しずつ好転していると思われるが、仕事の絶対量が足りないため業者間の競争が激しく採算面では厳しい」(上越・電気工事)など、はっきりとした回復の動きが見えないとの指摘のほか、先行きの不透明感を指摘する声も多い。建設業からは「建設業の景気は依然公共事業、建設関係とも発注量が少なく厳しい状況が続くと思われる」(花巻)や「住宅着工数が減少してきており今後不安が広がっている」(帯広)などの声が寄せられている。製造業からは、「一部小型建機、電子産業などに活況もみえつつあるが本格的に安定するかは今しばらく不安」(松任・金属加工機械)や「受注は昨年並みだが単価の引き下げもあり採算厳しい。先行きとしても受注量減少してきそうな様子」(倉敷・一般機械)など先行きの受注について不透明との声が寄せられた。小売業からは、「商店街全体が火の消えたような状態である。歳末商戦に期待しているが、反面全く効果がないのではという不安も持っている」(館山・商店街)や「個人消費は引き続き低迷しており歳末商戦も期待薄」(亀岡・大型店)などの声が寄せられた。また、サービス業からは飲食店を中心に忘年会シーズンへの期待が多く寄せられているが、一方で、「忘年会予約の出足鈍く先行きが心配される」などの声も寄せられている。

○ 需要の低迷

引き続き、需要の低迷を指摘する声が多く寄せられている。建設業からは「公共工事については予算が削減されていることに加えて、大手業者に受注が集中しており、末端の中小企業者は厳しい状況」(静岡)をはじめ受注量不足との指摘が寄せられている。卸売業からは「公共工事関連の資材関係はいいが他は苦戦」(帯広・総合卸)との声や小売業からは、「個人消費は依然低迷しており横這い状態が続いている」(境港・商店街)、「セールを実施すると来客数が増加するが、来客者の購買力が低いので売上増につながりにくい」(赤穂・大型店)など消費の低迷を指摘する声が多く寄せられている。

○ 天候不順

「気温が高く衣料品関連の重点販売アイテムであるコートの売上が不振」(京都他)、「入店客は前年に比べ増加しているものの平年より気温が高かったため防寒衣料が不振」(狭山、静岡、豊橋他)や「暖房器具等冬物商材の動きが鈍く売上低迷」(半田)など高気温による売上への低迷を指摘する声の小売業を中心に多く、「消費の低迷と天候不順のダブルパンチ」(銚子)との声も寄せられた。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
11年 9月	下げ止まり感	円高・原油高	秋物不振
10月	下げ止まり感	需要の低迷	天候不順
11月	先行き不透明感	需要の低迷	天候不順

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「工事量は多少増加しているが、絶対量が足りないため業者間の競争が激しく採算面は厳しい状況」をはじめ仕事の絶対量不足と採算面での厳しさを指摘する声が続く寄せられている。先行きの受注についても「年内の仕事はなんとかあるが、年を越してから年度末までの見通しが見えない」との声も寄せられている。そうした状況から「2次補正予算における公共工事の取り扱いと地方公共団体での取り組みに関心を寄せている」との声も多く寄せられている。
製 造	採算D Iは前月水準と比べてマイナス幅が拡大したものの、業況・売上D Iはマイナス幅が縮小している。電子部品製造より受注増との声や、機械の一部より海外向け機械が動き出したとの声が寄せられているが、受注の減少や「仕事があっても値引要求が強く採算割れ」(金属加工機械)や「仕入れ単価上昇分を価格に転嫁できない」(食品)など採算悪化の指摘も引き続き多く寄せられている。先行きについても「一部活況も見えつつあるが本格的に安定してくるか不安」をはじめ先行き不透明との声が多い。
卸 売	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「公共工事関連の資材関係は良いが他の卸は苦戦」(総合卸)や「一般の消費需要の回復が見られず、小売筋では在庫の圧縮から仕入も小口傾向が強まり売上に結びつかない」(繊維卸)など消費不振による業況低迷の指摘が多い。
小 売	売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、業況D Iはマイナス幅が縮小している。11月中旬までは天候が温暖であったことから冬物衣料がまったくの不振」など天候不順の影響の指摘が多く寄せられた。また、「景気の下げ止まり感はあるが、消費の上向き感を感じられず売上は低迷気味」「マイナス幅の縮小も一進一退を繰り返し景気の回復にはまだ向かっていない」など消費の低迷を指摘する声は引き続き多く寄せられており、先行きについても「本格的歳末商戦を迎えるに当り気の抜けない状況」との見方も寄せられている。
サービス	売上D Iが前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、業況・採算D Iは前月と同水準となった。飲食を中心に忘年会シーズンの売上増に期待する声が多く寄せられているが、一方で忘年会予約の減少も指摘されている。また、輸送関連からは、原油の値上がりに伴うガソリン、軽油の値上がりの採算面への影響が指摘されている。

(参考)

【ブロック別概況】

- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では、全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、北海道、東北、近畿、中国、四国、九州の6ブロックで前月水準を下回り、北陸信越、関東、東海の3ブロックで前月水準を上回った。
- ブロック別の向こう3ヶ月の業況先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。北海道を除く全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	11年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全 国	▲ 46.7	▲ 44.6	▲ 42.5	▲ 43.4	▲ 42.7	▲ 42.7	▲ 30.0 (▲ 49.1)
北海道	▲ 23.0	▲ 22.4	▲ 13.5	▲ 18.5	▲ 23.5	▲ 27.3	▲ 28.8 (▲ 39.9)
東 北	▲ 38.1	▲ 37.7	▲ 34.6	▲ 36.6	▲ 34.0	▲ 36.9	▲ 29.1 (▲ 52.1)
北陸信越	▲ 46.7	▲ 49.7	▲ 37.1	▲ 51.0	▲ 44.8	▲ 33.0	▲ 26.7 (▲ 48.1)
関 東	▲ 46.1	▲ 42.7	▲ 43.0	▲ 44.5	▲ 46.2	▲ 44.8	▲ 30.0 (▲ 48.0)
東 海	▲ 50.9	▲ 52.1	▲ 47.3	▲ 51.6	▲ 55.2	▲ 49.7	▲ 33.5 (▲ 52.9)
近 畿	▲ 57.1	▲ 55.9	▲ 54.8	▲ 50.0	▲ 49.2	▲ 55.7	▲ 36.4 (▲ 54.5)
中 国	▲ 53.6	▲ 47.1	▲ 50.3	▲ 49.7	▲ 47.2	▲ 47.9	▲ 35.5 (▲ 54.3)
四 国	▲ 56.2	▲ 49.6	▲ 53.6	▲ 45.9	▲ 48.6	▲ 51.3	▲ 23.0 (▲ 28.3)
九 州	▲ 42.3	▲ 38.8	▲ 40.6	▲ 34.5	▲ 24.7	▲ 32.0	▲ 23.6 (▲ 54.0)

